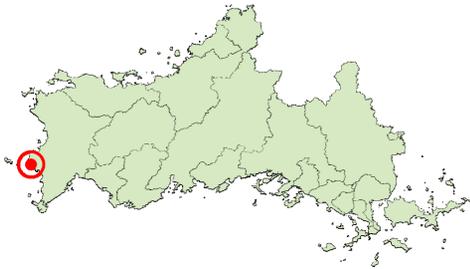




## 吉母（よしも）地区について

吉母地区は、山口県の西部に位置する下関市にあり、響灘に面す。地区内には、本州本土最西端の毘沙ノ鼻（びしゃのはな）があり、本州本土で一番遅い夕日が展望できる場所として有名である。また、海水浴場や近隣に水産大学校があるなど、小さな農村・漁村ではあるが、地域の活力を維持する要素を備えているのも特徴である。



## 藻場の現状

地区の沿岸には、大型海藻のアラメやホンダワラ類で構成された藻場が広がる。特にアラメの繁茂が著しく、藻場の面積は平成元年頃で75haに及ぶ（第4回自然環境保全基礎調査（環境省,1994））。

しかし、平成25年の夏の猛暑に、30℃以上の高水温が1週間程度続き、その影響で藻場の主な構成種であったアラメがほぼ枯死し、形成されていた藻場が消失した。

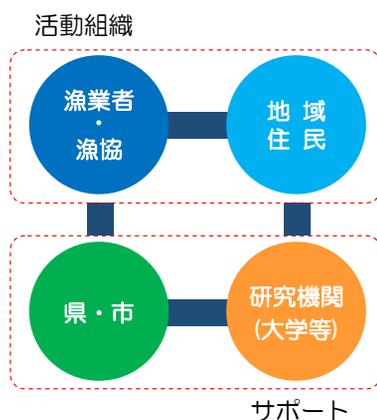
吉母地区では、これまで主に採貝藻を中心とする漁業が営まれてきた。採貝藻では、主にアワビやサザエ、ウニが漁獲され、これらを育む藻場は地区の漁業にとって極めて重要な生産基盤であった。また、衰退したアラメは、アワビなどの有用な餌としての価値だけでなく、地域の特産品「棒カジメ」の原料でもあり、その再生は喫緊の課題となった。



## 組織の設立及び活動方針

上記の課題から、地区の漁業者が中心となって、平成25年度に「吉母地区藻場保全グループ」を設立し、藻場の回復・維持を目的に活動をスタートした。

組織の体制は、右記に示したとおりである。また、藻場の回復・維持に係る活動の方針は、以下のとおりとした。



### ●活動方針

- 母藻の投入** アラメの種の供給不足を補うための、母藻投入
- ウニの除去** 再生エリアにおける藻場回復の障壁となるウニの集中除去
- モニタリング** 定期的な定点モニタリングによる活動の効果検証

## アラメ場の回復・維持に向けて

### (1) 母藻の投入

母藻の投入は、衰退したアラメの種不足を解消する目的で実施する。母藻の投入方法は、成熟期の11月にアラメの片葉を採取し、それをアサリ袋にコンクリートブロック半隅と一緒に詰めて、船上投入する。設置場所は、水深5~10mにあるかつてのアラメ場で、特にウニの好漁場であった箇所を再生エリアに選定し、取り組みを進めている。なお、母藻とするアラメは、主に隣接する島根県の隠岐の島産のものを入手し、活用している。



### (2) ウニの除去

ウニ（主にムラサキウニ）の除去は、上記の母藻投入を行う再生エリアで、集中的に行っている。方法は、素潜りによって手かぎでウニを採捕し、陸揚げする。陸揚げしたウニは、人家のないミカン園の跡地に許可を得て、適正処分している。ウニの除去は、水中で潰す方法もあるが、①再生エリアの水深が深いことと、②素潜りで作業を行うことから、確実にウニを除去できる採捕による方法を当組織では採用している。



## 活動の効果と課題

平成25年度から主にアラメ場の回復・維持に向けて活動を行ってきた。その結果、平成25年度に被度0%であった再生エリアにおいて、ホンダワラ類主体の大型海藻が平成28年度冬季に50%強で繁茂するようになった。また、29年度以降はアラメやツルアラメの混生が著しくなり、現在はアラメ・ツルアラメ・ホンダワラ類が混生した海藻群落が被度40%強で形成されるまでになった。

今後も、アラメの被度が100%に及ぶかつての藻場を目指し、活動を継続する。また、現在、構成員が高齢化していることから、藻場に興味のある一般人にウニの除去を手伝ってもらうなどの検討を進める。

2月の大型海藻被度(%)

